

目 次

	ページ
【 調査の概要 】	
1 調査の目的	1
2 調査の概要	1
3 資料のみかた	1
4 回収状況と信頼区間	2
【 結果の概要 】	
結果の概要	3
【 調査結果 】	
I 鳥取県の住みやすさについて	6
問 1 あなたは、鳥取県に対して愛着や誇りを感じていますか	6
問 2 あなたが、今暮らしている地域の住みやすさを教えてください	8
問 3 あなたがいま、鳥取県内に暮らしていて、次の項目（設問）についてどう思われますか	10
II 鳥取県の施策の満足度と今後の優先度について	12
問 4-1 「豊かな自然でのびのび鳥取らしく生きる」取組の満足度	12
問 4-1-1 「豊かな自然でのびのび鳥取らしく生きる」取組の満足度	14
問 4-1-2 「豊かな自然でのびのび鳥取らしく生きる」取組の重要度	16
問 4-2 「人々の絆が結ばれた鳥取のまちに住む」取組の満足度	18
問 4-2-1 「人々の絆が結ばれた鳥取のまちに住む」取組の満足度	20
問 4-2-2 「人々の絆が結ばれた鳥取のまちに住む」取組の重要度	22
問 4-3 「幸せを感じながら鳥取の時を楽しむ」取組の満足度	24
問 4-3-1 「幸せを感じながら鳥取の時を楽しむ」取組の満足度	26
問 4-3-2 「幸せを感じながら鳥取の時を楽しむ」取組の重要度	28
問 4-4 「県政のさまざまな取組」の満足度	30
問 4-4-1 「県政のさまざまな取組」の満足度	32
問 4-4-2 「県政のさまざまな取組」の重要度	34
III 重点施策への関心・認識	36
《女性の活躍推進について》	

問 5	ワーク・ライフ・バランス、男女共同参画社会の認識.....	36
問 6	男女に関する役割などについて、次の項目(設問)についてどう思いますか.....	39
問 7	女性が出産後も子育てと仕事を両立するために、行政が行うべき必要な施策.....	40
問 8	介護と仕事を両立するために、行政が行うべき必要な施策.....	42
問 9	イクボス・ファミボスの取組を推進するために、行政が行うべき必要な施策.....	44

《鳥取県中部地震からの復興・復旧について》

問 10	復興・復旧は進んでいると思いますか.....	46
問 11	(復興・復旧について)どの項目が進んでいないと思いますか.....	48
問 12	今後、さらなる復興を進めていく上で、どのような取組が必要ですか.....	50

《減災・防災対策について》

問 13	「支え愛マップ」についてご存知ですか.....	52
問 14-1	「支え愛アップ」をどのような媒体で知られましたか.....	54
問 14-2	「支え愛アップ」づくりに参加したことがありますか.....	56
問 15	今後の対策として大切だと思うこと.....	58

《あなたの幸福度について》

問 16	鳥取県に暮らしていて、あなたは今の程度「幸せ」ですか.....	60
問 17	あなたの「幸福度」を判断する時に、あなたが重視することはなんですか.....	62
その他・自由記述.....		64

IV	回答者の情報.....	72
1	性別.....	72
2	年代.....	72
3	職業等.....	74
4	居住地.....	74

【資料】

調査票.....	76
集計結果.....	88

【 調 査 の 概 要 】

1 調査の目的

鳥取県には、都会にはない「豊かな自然」や「人と人との絆」、心豊かな暮らしを実現できる「幸せを感じる時間」があります。

県ではこのような強みを活かし、県民の皆さんとともに様々な地方創生の取り組みを進めています。

これからも、住み慣れた地域で安全に安心して暮らし続けていくために、現在の状況や今後の要望など、率直なご意見をお伺いするため調査を行ったものです。

2 調査の概要

- (1) 調査対象 鳥取県内在住の18歳以上の者 3,000名
- (2) 抽出方法 住民基本台帳に基づく無作為抽出法
- (3) 調査時期 平成30年6月
- (4) 調査方法 (2)により抽出した者に対し、郵送により調査票を送付して実施した。なお、調査票の提出は無記名とした。
- (5) 有効回答数 1,324名
- (6) 回収率 44.1% (1,324/3,000)

3 資料のみかた

(1) 比率(%:パーセント)の表示について

原則として、各設問の無回答を含む集計対象総数(副設問では設問該当対象数)に対する百分率(%)を表している。1人の対象に2つ以上の回答を求める設問では、百分率の合計は100%を超える。また、百分率は小数点以下第2位を四捨五入し、小数点第1位までを表示した。

(2) 「無回答」の取り扱いについて

以下については「無回答」として取り扱うこととした。

- ・回答が選択されていない場合
- ・選択肢の文章を変更して、回答を選択された場合

(3) 調査項目の「合計」の不一致について

クロス集計[※]の「合計」と単純集計の「合計」は一致しない。これは、クロス集計には、性別、年齢などが記載されていないものは含めていないためである。

※クロス集計...性別、年齢や他の質問項目を掛け合わせてデータの分析や集計を行うことにより、相互の関係を明らかにするための集計方法

(4) クロス集計の年代:18~19歳の取り扱いについて

クロス集計の18~19歳は母数が少ないため他の年代と比較・分析する場合は除外することとする。

4 回収状況と信頼区間

(1) 必要標本数について

今回の調査においては、18 歳以上の県人口 478,007 人(平成 30 年 6 月現在)から無作為に、3,000 人を抽出し、調査の依頼を行った。そのうち有効回答数は 1,324 人であり、回収率は 44.1%であった。まず、標本数の設定については、次の式によって与えられる。

$$A = \frac{N}{\left[\frac{\varepsilon}{X(\alpha)} \right]^2 \cdot \frac{N-1}{\sigma^2} + 1}$$

- A = 必要標本数
α = 推定を誤る確率
X(α) = 正規分布の性質から与えられる値(1.96)
N = 母集団の大きさ(満 18 歳以上の県民)
σ² = 母分散
ε = 精度

本調査では、信頼度を、95%とし計算を行った。この場合、X(α)は、1.96 であり、母集団の大きさは人。精度を仮に 3%、母比率を 50%とし、それぞれ代入して計算すると、以下のとおりとなる。

$$A = \frac{478,007}{\left[\frac{3}{1.96} \right]^2 \cdot \frac{478,007}{50 \times 50} + 1} = 1,064.6973$$

よって、今回の調査において必要な最小標本数は 1,065 人であり、有効回答 1,324 人はこの条件を満たしているといえる。

(2) 標本誤差について

有効回答票の標本誤差を次の式によって計算した。

$$B = \pm 1.96 \cdot \sqrt{\left[\frac{N-n}{N-1} \right] \cdot \frac{Q(1-Q)}{n}}$$

- B = 標本誤差
N = 母集団の大きさ(満 18 歳以上の県民)
n = 回答者総数(1,324 人)
Q = 母比率(0.5とする)

$$B = \pm 1.96 \cdot \sqrt{\left[\frac{476,683}{478,006} \right] \cdot \frac{0.5(1-0.5)}{1,324}} = \pm 2.68$$

すなわち、標本誤差は ±2.7% しかないといえる。

【 結 果 の 概 要 】

1 回答者の属性について

- 性別: 男性 518 人(39.1%)、女性 777 人(58.7%)
- 年齢: 18～19 歳 (1.6%)、20～29 歳 (8.2%)、30～39 歳 (12.0%)、40～49 歳 (16.8%)
50～59 歳 (18.8%)、60～69 歳 (28.4%)、70 歳以上 (13.1%)

I 鳥取県の住みやすさについて

- 鳥取県に対する愛着や誇りに思う気持ちは、約7割の人が「感じている」と答えている。
- 鳥取県で、今暮らしている地域は、6割以上の人が「住みやすい」と答えている。
- 豊かな自然環境に恵まれていると感じている人が約9割と圧倒的に多く、また治安が良いと感じている人が約6割、住民が親切で、人と人の繋がりがあると約5割の人が答えている。
- 生活の中で公共交通機関の整備は、半数以上の方が「整っていない」と感じている。

II 鳥取県の施策の満足度と今後の優先度について

【豊かな自然でのびのび鳥取らしく生きる】

- 「農林水産・畜産業の担い手育成」「農業の活力増進」の農林水産関係、また「外国人観光客が訪れやすい観光地づくり」「鳥取県周辺地域と連携した観光客推進」等の観光関係に『不満』の意見が多い。しかし、「豊かな自然環境の保存・活用」「観光資源を活用した誘客の取組」「次世代エネルギーの推進や二酸化炭素排出量削減」等の取組には『満足』と感じている。

(今後優先すべき重要度の高い項目)

- 「農林水産・畜産業の担い手育成」「農業の活力増進」「観光資源を活用した観光誘客の取組」等の農林水産関係と観光誘客の取組を優先すべきとして意見が上位を占めている。

【人々の絆が結ばれた鳥取のまちに住む】

- 「中山間地域の安心と元気をつくり出す」「若者の出会い、結婚応援」「子どもたちの多様な学びの機会への取組」に『不満』を感じている。しかし、「安心して出産や子育てできる環境」は『満足』と感じている意見が多い。

(今後優先すべき重要度の高い項目)

- 「安心して出産や子育てができる環境」「中山間地域の安心と元気をつくり出す」等の子育てや中山間地域に関する項目、また「若者の出会い、結婚応援」「高齢者や障がい者が輝ける地域づくり」等の意見が上位項目となっている。

【幸せを感じながら鳥取の時を楽しむ】

- 「暮らしやすく、町を元気にしていく取組」「働く場の確保」「新たな産業を生み出す取組」等に『不満』を感じている意見が多い。しかし、「スポーツの盛んな地域づくりへの取組」は『満足』と感じている意見が多い。

(今後優先すべき重要度の高い項目)

- 「働く場の確保」「住み続けたい・帰りたい鳥取県を創造」の取組を5割以上の方が優先すべきと答えている。

【県政のさまざまな取組】

○「県内交通の高度化への取組」「子どもの学力向上のための取組」等に『不満』を感じている意見が多い。しかし、「健康を守り、医療体制を強化する取組」は『満足』と感じている意見が多い。

（今後優先すべき重要度の高い項目）

○「災害に強いまちづくり・防災意識啓発」「県内交通の高速化」「健康を守り、医療体制を強化」を優先すべきと5～4割の人が答えている。

Ⅲ 重点施策への関心・認識

＜女性の活躍推進について＞

- 「ワーク・ライフ・バランス」は約4割、「男女共同参画社会」は約6割が「知っている」と答えている。
- 男女に関する役割などについて、約9割の人が「現実として家事が女性の役割となっていると思う」「現実として子育てが女性の役割となっていると思う」と答え、また7割強の人が「現実として介護が女性の役割となっていると思う」と答えている。
- 女性が出産後も仕事を続けるための行政の役割について、5割以上の人が「育児による離職者を再雇用した企業（雇用主）に対する経済的支援（補助金制度）」「ワーク・ライフ・バランスを実現できる労働環境整備の手助け」と答えている。
- 介護と仕事を両立するために行政が行うべき施策について約5割の人が「介護による離職者を再雇用した企業（雇用主）に対する経済的支援（補助金制度）」「男性の介護休暇（介護休業）取得に関して企業（雇用主）に対する経済的支援（補助金制度）」と答えている。
- イクボス・ファミボスの取組を推進するための行政の役割について5割以上の人が「ワーク・ライフ・バランスを実現するための労働環境整備の支援」と答えている。

＜鳥取県中部地震からの復興・復旧について＞

- 復興・復旧が進んでいるかについて約5割の人が「進んでいる」「やや進んでいる」と答えている。
- 復興・復旧に関してどの項目が進んでいないかは、8割弱の人が「住宅、建物の修繕」、4割以上の人が「被災者の生活再建」「震災後へのまちづくり支援（施設整備の支援など）」と答えている。
- 今後、さらなる復興を進めていく上で、どのような取組が必要かについて5割以上の人が「被災者住宅再建等の支援」「生活復興支援の体制整備」、4割以上の人が「災害時の福祉支援体制の整備」を答えている。

＜減災・防災対策について＞

- 支え愛マップの認識について「知っている」は約2割にとどまっている。
- （支え愛マップを「知っている」と回答した人で）どのような媒体で知ったかについて「広告紙」が5割弱、「地域の会議参加時」が3割以上、「チラシ」が約1割となっている。
- 支え愛マップづくりに2割弱の人が「参加したことがある」、約3割の人が「今後、参加したいと思う」と答えている。
- 今後の対策として大切だと思うことは「避難所設備等の充実（避難所用点字マップの配備やタブレットによる意志の疎通、避難所のトイレ整備など）」が6割以上。

＜あなたの幸福度について＞

- 鳥取県に暮らしていてあなたの幸福度について「5普通」以上が約8割。
- 幸福度を判断するとき6割以上の人が「家計の状況」「自身の健康の状況」と答えている。